



今、JGAニュースを読んで頂いている製薬会社の経営層並びに従業員の方々は、どれだけ患者様、医療関係者様が困っているのか、理解されていますか？

ジェネリック医薬品の品質問題、供給問題は、社会に対して多大なご迷惑をおかけする事態となっております。現在、医薬品を製造販売する業界として、日本ジェネリック製薬協会は信頼回復に向けて掲げた取組み課題に不退転の決意で臨み、国民の皆様、関係者の皆様が抱いておられるジェネリック医薬品に対する不信感を解消しなければなりません。それなくして、ジェネリック医薬品が真に医療に貢献することはできないと認識しております。

製薬企業の方々は、実際の現場での困りごとに触れる機会がどれくらいあるのでしょうか。所属部署によっては、そういった声に触れる機会がない方もいるかもしれません。ジェネリック医薬品を製造販売する企業の経営層並びに従業員一人一人が現状を認識し、何ができるかを考える事は信頼回復のための大きな一歩であると考えます。

そこで、本コーナーでは定期的に日本ジェネリック製薬協会あるいは会員会社に寄せられた医療現場の声をご紹介します。

先発カプセル剤を服用している患者さんが年齢を重ね、カプセルが飲みにくいとの申し出があった。この患者さんに錠剤を勧めたかったが、出荷制限により新規採用お断りの連絡を受けた。
本当に必要としている患者さん1名分でも都合してもらえないのかというのが本音です。患者さんのことは常に最優先で考えて頂きたい。

限定出荷でも100%の製造量なら、既存顧客分は保証されるのではないかなぜ入ってこないのか？

我々は土曜日でも日曜日でもやっている。生産が足りないために3交代4交代24時間ずっと365日工場を動かすことは大変だと思うが、頑張っ欲しい。

かかりつけの患者様が、うちに新規で処方箋を持って来てくれた。
供給が滞っている現状を説明しなければならぬ心苦しさをしっかりメーカーの方にも理解して頂きたい。

協会においても製品出荷状況システム化を構築し、医療関係者様の負担軽減に微力ながら貢献してまいります。

日本ジェネリック製薬協会 | 製品の供給状況について (jga.gr.jp)

<https://www.jga.gr.jp/medical/supply.html>